

小郡 星空観測記

小郡市
地域おこし
協力隊
活動報告
コラム



笹月 将
(ささづき しょう)

1995年、福岡県生まれ。
広島市のこども文化科学館での勤務歴があり、子ども向けの天体教室・観測会に関わる。趣味は読書、チェス、将棋。好きな太陽系惑星は海王星で、未だ謎多き深い青の惑星に魅力を感じます。



中秋の名月の上に輝く土星「この日は中秋の名月のすぐ近くに土星が輝いていました」



小郡市の鳥、白鷺と中秋の名月

小郡で月を眺める

今年9月18日は中秋の名月でした。日頃から夜空を見上げることの多い私ですが、やはり昇りたての中秋の名月は格別です。日本では、古来から星よりも月に興味があつたようで、藤原定家が選定した「小倉百人一首」の100首のうち、12首が月に関する和歌だそうです。今も昔も月を眺めたくなる感性というものが日本人にはあるのではないのでしょうか。

さて、小郡市でも中秋の名月の晩は特別な日のようなのです。小郡市の一部の地域では「名月さん」と呼ばれる、子どもたちが家を訪ねて、お菓子をもらおう行事が今でも続いています。昔は中秋の名月の日に、芋を供えていたことから、「芋名月」とも呼ばれています。私もその日は月を眺めて市内を歩いていたのですが、子どもたちの嬉しそうな声があちこちから聞こえてきました。星や月と関わりのある文化が今でもこの小郡市に残っているのは、現代社会で失われつつある日本人としての豊かな感性が残っているからではないかと感じました。このような文化が続いてほしいものです。

笹月隊員の星空予報

11月に見える星空 一秋の1等星を探せ！

夜空には多くの星が輝いていますが、その明るさを「等級」という分類で分けています。最も明るい星を1等星、そして肉眼で見える限界ギリギリの明るさの星が6等星だと言われています。日本から見える1等星は合計で16個ですが、季節によって見える1等星の数はバラバラです。そしてなんと秋の星空には1等星が1つしかありません！南の方角のやや低い位置に輝く「みなみのうお座のフォーマルハウト」を探してみましょう。



©アストロアーツ

11月中旬 20時
小郡市の星空(南の方角)

